

ベストセラー
『言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか』

[著者インタビュー]

人はなぜ 言語の本質を 知りたくなるのか？

今井むつみ

(認知科学者)

秋田喜美

(言語学者)

ワクワク、ドキドキ、イライラ、ムカムカ、
ふわふわ、ゴトゴト、コトコト……、
マンガなどでもなじみのあるオノマトペ。
擬音語や擬態語などにあたる、このオノマトペこそが
人類の言葉の発生、獲得、進化と深い関係がある
ことを鮮やかに描く

『言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか』(中公新書)が
ベストセラーになっている。ふたりの著者に
言語の本質に迫る試み、その奥深さについて聞く。

「言語の本質」を知ることの意味

——オノマトペという普段、自分自身が使っているものから、グイグイ引き込まれて読み進みました。そして、言語の本質を知ることになぜこれほど深い興味を抱くのだろうか？ そんな読後感を抱えています。

秋田 本当に言葉を理解するとはどういうこと

なのか、という本質的なテーマに本書がつながっているからだと思います。

今井 当初、本のタイトルは『言語とは何か』で進んでいました。オノマトペをタイトルに使うことも考えたのですが、秋田さんと話をしながら書き進めるうちに、この本で行いたいのはオノマトペを手がかりに言葉の進化の本質を描くことだと確信して、『言語の本質—ことば

はどう生まれ、進化したか』に決まりました。——擬音語や擬態語を指すオノマトペですが、本のなかでは換喩的であること(「鍋を食べる」の「鍋」はその中にある料理を指している)、対象の一部を写しとるアイコン性が指摘されています。「アイコン性を頼りに音と概念を結びつけ、言語のもとを生み出したのかもしれない」と。

今井 言語サイドと人間サイドから行き来しています。

「言語の十大原則」というのがあって(図)、論文を読んでいると、言語学の方は、そのどれかを研究されている。「言語は恣意的である(記号と意味する内容に必然的な関係はない)」というのも原則のひとつで、そこに挑戦状を叩きつけた本でもありました。

オノマトペは感情や触覚を言語の音とつながり役割を果たしています。だから、強く身体とつながっている。では、オノマトペ以外の言葉は身体とつながっていないのか？ そんなことはないのではないかと？

この問題提起は私たちがオリジナルではなく、イギリスなどの研究でも注目されています。

秋田 世界的な潮流はたしかにありますね。
今井 オノマトペは言語のデザインフィチャー



言語学ブームを象徴する『言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか』(中公新書)。オノマトペや人間特有の推論のシステムから言葉とは何か、人間とは何かに迫る。

図 「言語の十大原則」とオノマトペの関係

- ・コミュニケーション機能
- ・意味性
- ・超越性
- ・継承性
- ・習得可能性
- ・生産性
- ・経済性
- ・離散性
- ・恣意性
- ・二重性

これら2つを満たさない理由でオノマトペは言語ではないとされてきた

1 (根幹となる本質的特徴) にとってもなくてはならないものです。オノマトペは意味の推論を助け、人に言語の大局観を与えるのです。

人はなぜ言語の本質を知りたいのか？

——オノマトペの在り方を知ることが「言語の本質」を理解するための第一歩であることがわかりました。冒頭でも触れましたが、人はなぜこれほど「言語の本質」を知りたいのでしょうか？

秋田 言語を知りたいことは、人間を知ることなのだろうと思います。人間とはどういうものかを知りたいの明確な道のひとつが言葉をたどること

とだと考えます。どうして言語が異なるとこんなに言い方が違うのか、なぜこういいうい方をするのか……などの疑問に、人間そのものを知る鍵が潜んでいるのではないのでしょうか。

今井 普通、言語学者が本を書くと言語の現在の姿、その分析が中心になる傾向があると思います。私は言語という壮大な知識の体系にどうすれば迫ることができるかという観点に関心があります。知識も情報処理能力も非常に限られている赤ちゃんが、どうやって巨大な知識の体系を自分の中に取り込めるのか？

二〇二二年に翻訳書が出た『言語はこうして生まれる』(新潮社)はモーターン・H・クリスチヤンセンとニック・チェイターというふたりの認知科学者が書いたものです。言語学者が書いた本とはテイストが異なります。

秋田 サブタイトルは『即興する脳』とジェスチャーゲームですね。

——言語をジェスチャーゲームだととらえることで言語もコンピュータ間のコミュニケーションであると考えたり、「恣意性の境目」という考え方も登場したりしています。

秋田 オノマトペとジェスチャーには共通点があります。形式が意味を模しているという「アイコン性」はその一つ。実際、オノマトペとジ